

E-1 平安(源氏物語)と江戸(西鶴文学)にみられる調度について
 福岡教育大 秋山晴子 九州大工 森下正代

目的 日本では、調度は平安時代に公家調度として、その基本的な形が整えられた。それが年月を重ねて、武家調度に影響し、更に近世(江戸)庶民の調度にまで影響を与えていると言われているが、この間の事情を明確にしたい。平安公家調度は、近世庶民の調度の成立にどのような影響を与えてきたのだろうか。武家調度に関しては資料不足もあって、まだ発表の段階には到っていないので、平安時代の源氏物語、江戸時代の西鶴の町人物に出典する調度からのみ考察した。

方法 源氏物語と西鶴物(日本永代蔵、世間胸算用、西鶴織留)より抜き出した調度を、屏障具、座臥具、納具容器、飲食具、燈炉具、容飾具、その他)に分類し、次のようなことに留意して比較した。1. 両時代に出典し、平安公家調度、江戸時代には庶民の生活にまで浸透していると思われる例 2. 源氏物語には全く出典しなかった調度が、西鶴物へ出典する例 3. 源氏物語にのみ出典がみられ、それが主に貴族と庶民という身分差によって、江戸時代には出典していない例。

結果 下表のような結果を得たが、詳細については当日発表する。

	屏障具	座臥具	納具容器	飲食具	燈 炉 具	容 飾 具	その他
1.	屏風	畳蒲団類	長持類	籠籠、折敷 膳類	火鉢、火桶、灯笼、松明 燈台	鏡、角付ら	
2.	戸建具		掛視等	重箱	こたつ、提灯、行灯		欄
3.	陸代軟障几帳 燈台		厨子、二階欄		紙燭、かがり火		